

2020 年度
事業報告書

2020年4月1日から
2021年3月31日まで

一般財団法人
九電みらい財団

2020年度は、前年度の実施状況や評価等をはじめ、新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、環境活動（環境保全活動と環境教育活動）、次世代育成支援活動および活動の情報発信について充実を図るとともに、新規活動を検討

I 環境活動

1 坊ガツル湿原（大分県竹田市）での環境保全活動および周辺地域での希少植物保護活動

- 坊ガツル湿原の保全及びその一帯に生息する希少植物の保護のため、湿原の野焼きや希少植物保護、植生保護等の活動を計画
- 各活動とも概ね計画どおりに実施できたものの、一部で悪天候による延期や新型コロナウイルス感染症拡大に伴う実施見送りにより、参加者は505名（前年度比2名減）
- 新型コロナウイルス感染防止を図るため、受付での検温実施や手指消毒の徹底、作業時のマスク着用などの対策を実施
- 参加者の裾野を広げ活動を継続していく観点から、年間活動計画周知時や各活動の参加者募集時を捉え、活動の意義や魅力を紹介し、新規参加を促す旨を周知した結果、坊ガツル野焼き活動は、参加者のうち約1/4が新規参加となった

(1) 坊ガツル湿原 野焼き活動

- 当財団と地元の団体・企業等で構成する「坊ガツル野焼き実行委員会（事務局：当財団）」を中心に、九州電力(株)大分支店および地元団体と連携のうえ、活動を実施（輪地切り、輪地焼き）

活動	内容	実施日	参加者
輪地切り	野焼きの際の延焼を防止するための防火帯をつくる作業	8/22	124名
輪地焼き	防火帯部分に新芽が出ないように、刈った草を集め焼き払う作業	10/3	125名
本焼き	防火帯の内側に火入れを行い、坊ガツル湿原一帯を焼く作業	3/27	113名

(2) 坊ガツル湿原 希少植物保護活動

内容	実施日	参加者
湿原の希少植物保護のため、外来植物を除去する作業	8/2	84名

(3) 平治岳（大分県竹田市）ミヤマキリシマ植生保護活動および登山道整備

内容	実施日	参加者
希少植物であるミヤマキリシマの植生を保護するため、生育の支障となる樹木（ノリウツギ等）を伐採するとともに、老朽化している登山道を整備	11/14	59名

※ 4月に予定していた活動は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府からの緊急事態宣言に伴う外出自粛要請に伴い実施見送り

(4) その他の活動

- ラムサール条約が求める「保全」と「活用」の観点から以下の活動を実施

内 容	実施日	参加者
平治岳のミヤマキリシマ植生保護範囲をやまなみハイウェイから眺望できる北側斜面にも拡大し、観光資源化を目指すため、生育の支障となる樹木（ノリウツギ等）を伐採 ※急峻であるため委託で実施	9～12月	(委託)

(5) 活動の評価

- 「坊ガツル野焼き実行委員会」において新型コロナウイルス感染防止対策について議論し、対策を徹底して実施したことから、大きなトラブルもなく安全に活動できた
- 各活動とも、動画により活動の意義や魅力を紹介したほか、参加者に対し職場等での参加呼びかけを依頼したことなどから新規の参加者が増え、参加者の裾野を広げることができた

2 山下池周辺（大分県由布市）での環境教育活動

- 市民の環境保全意識の向上のため、山下池周辺の九州電力社有林「くじゅう九電の森」において、次世代（小・中・大学生）や保護者を対象に、「講話」と「体験」から成る環境教育を実施
- 新型コロナウイルス感染防止を図るため、密とならない人数で実施できるプログラムや実施体制について検討したほか、受付での検温実施や手指消毒の徹底、活動時のマスク着用などの対策を実施

(1) 学校向け

- 小中学校向けは、福岡県、大分県での校長会でのPR回数増や募集開始の早期化により、申込校が前年に比べ5校増加（計26校、うち新規申込は11校）し、1回あたりの受入人数も拡大した（平均参加者数：2019年度68名/回 ⇒ 2020年度76名/回）ことから、計画段階では参加者は増加する見込みであったが、新型コロナウイルス感染症に関する各教育委員会からの通達等（バス移動を伴う活動は中止・延期すること）により、2020年度は1校71名（子ども66名、引率5名）にとどまった（前年度比1,122名減）

	実施日	対 象	地域	子ども	引率	計
1	10月21日(水)	杵築市立八坂小学校	大分	66	5	71
	計			66	5	71

※ 以下の学校は、新型コロナウイルス感染症に関する各教育委員会からの通達等により中止

- ・福岡県北九州市：富野小学校
 - ・ 〃 福岡市：愛宕浜小学校、壱岐東小学校、吉塚小学校、玉川小学校、春吉小学校、小笹小学校、西陵中学校、石丸小学校、早良小学校、当仁小学校、能古小学校、日佐小学校
 - ・ 〃 久留米市：下田小学校、長門石小学校
 - ・ 〃 大牟田市：白川小学校、明治小学校
 - ・大分県大分市：川添小学校、神崎中学校
 - ・ 〃 別府市：緑丘小学校
 - ・ 〃 由布市：由布院小学校
 - ・その他：豊後大野市放課後チャレンジ教室
- 大学向けは、教員を目指す大学生対象の環境教育を3回（200名参加）計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全て中止（前年比31名減）

※ 当初の参加予定校

- ・福岡県：福岡教育大学、西南学院大学、中村学園大学、筑紫女学園大学、福岡大学
- ・大分県：大分大学、別府大学

(2) 親子向け

- 大分県で開催される予定であった第5回「山の日」記念全国大会関連イベントとして、8月に500名規模での開催を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施時期を10月に変更したほか、3密を回避できるプログラムに見直し、計2回実施、175名（子ども88名、大人87名）参加（前年度比968名減）

	実施日	対 象	子ども	大人	計
1	10月11日(日)	九州全域の親子	42	44	86
2	10月18日(日)	〃	46	43	89
		計	88	87	175

(3) 活動の評価

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動数は減少したが、親子向けについては実施時期やプログラム見直し等を行ったほか、防止対策を徹底して実施したことから、大きなトラブルもなく安全に活動できた
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各学校において1人1台パソコンが導入される等の教育環境の変化をチャンスと捉え、VRやCGなどのデジタル技術を活用し、現地に行かなくても森の疑似体験が可能となるコンテンツ開発を図るとともに、これまでのネットワークを活用し九州地域に広く展開することが必要

3 新型コロナウイルス感染拡大下の取組み

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出自粛を余儀なくされている方々におうち時間を少しでも楽しんでもらうため、「くじゅう九電の森」及び「坊ガツル湿原一帯」の美しい新緑、花などのドローン映像を交えた動画や、子どもが森の役割について「講話」と「実験」を通して学べる動画、自宅で作れる簡単工作動画（モバイル、葉拓）を制作し、九州電力が実施する「あしたプロジェクト～あしたを、しんじて、たすけあおう～」に併せ、同プロジェクトの特設サイト（九州電力公式 YouTube チャンネル「KyudenChannel」）に掲載

II 次世代育成支援活動

1 2020 年度

(1) 募集

- 少子高齢化や共働き世帯の増加など、子ども達を取り巻く現状や課題の中から、有識者の意見や他財団の活動事例も踏まえ、前年に引き続き「子ども達への支援活動」と「子育て世帯への支援活動」を募集テーマに設定
- 募集にあたっては、当財団のホームページやフェイスブックでの紹介をはじめ、九州各県の環境教育担当部署及び中間支援NPO、社会福祉協議会等を通じた社会活動団体支援ネットワークのメールマガジン等により幅広く周知

(2) 選考結果

- 九州各地から102件（平均で76万円の助成希望）の応募があり、選考委員会で審議のうえ、23件（約1,500万円）の団体に助成
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3団体が活動の中止を理由に助成を辞退
- 団体の活動取材し財団ホームページやフェイスブックで紹介（団体の活動時には財団の助成活動である旨を明示）

(3) 助成先団体の概要

○ 助成分野と件数は以下のとおり

テーマ	活動分野	助成件数
子どもたちへの支援	子どもの貧困対策や居場所づくり、ハンディキャップを抱える子どもの支援	4
	郷土教育や演劇・音楽等、様々な体験を通じた次世代育成	10
子育て世帯への支援	共働き世代への子育て支援	9

○ 地区別応募・選考状況は以下のとおり

地区	北九州	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	合計
応募	13	28	15	2	10	12	8	14	102
選考	3	5	3	1	2	4	2	3	23

2 2021 年度

(1) 募集

- CO2削減など地球環境問題への関心が急速に高まっており、エネルギー事業者である九州電力の設立財団として、子ども達の環境意識醸成を目的として「子どもたちの自然を大切にすることを育む活動」を募集テーマに設定
- 募集にあたっては、当財団のホームページやフェイスブックでの紹介をはじめ、九州各県の環境教育担当部署及び中間支援NPO、社会福祉協議会等を通じた社会活動団体支援ネットワークのメールマガジン等により幅広く周知

(2) 選考結果

- 九州各地から22件（平均73万円の助成希望）の応募があり、社外有識者の意見を踏まえ審査を行い、11件（約640万円）の団体に助成

(3) 助成先団体の概要

○ 助成分野と件数は以下のとおり

活動分野	助成件数
植樹や林業体験を通して自然を守ることを学ぶ活動	4
農業体験や自然観察などを通して自然の大切さを学ぶ活動	7

○ 地区別応募・選考状況は以下のとおり

地区	北九州	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	合計
応募	4	5	2	2	4	2	2	1	22
選考	2	1	2	1	2	1	1	1	11

3 活動の評価

- 2020年度の活動について、助成先団体からは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、密集が避けられない活動はオンラインに切り替えるなどの活動内容変更の申し出に対し柔軟に対応したことや、広報面での支援、事業所によるイベントへの協力について高い評価を頂いている
- 2021年度についてはテーマを変更して募集を行ったが、応募件数が前年に比べ大幅に減少したことから、次年度は各県の森林組合へのPRや助成事業に関する説明会等への積極的な参加により、本事業について広く周知することが必要

Ⅲ 新たな取組みの検討

(1) 九電みらいの森プロジェクト

- 九州各地で、地域と協働で植林に取り組むとともに、市民が集う「憩いの場」としてフィールド整備を行い、市民との交流や環境教育の拠点となる「九電みらいの森」を整備する「九電みらいの森プロジェクト」について検討

(2) デジタル技術を活用した環境教育

- 「くじゅう九電の森」での環境教育の内容について、CGやアニメーション、VR等のデジタル技術を活用したコンテンツを制作し、学校を訪問して実施する「出前方式」及び九州全域の親子を対象としたオンラインイベント等での活用により、環境教育の接点を広げていくことについて検討

Ⅳ 活動の情報発信

- ホームページやSNS（フェイスブック、インスタグラム）のほか、九電グループ生活情報誌「みらいと」など多様な媒体での情報発信を実施
- ・ インスタグラムでの写真コンテストや各活動時における参加者へのPRにより、フォロワー数が増加

[2020年度の報道実績]

()内は昨年度の実績

内 容	T V	新聞	合計
坊ガツル湿原一帯での環境保全活動	8	12	20(10)
くじゅう九電の森での環境教育	0	0	0(0)
次世代育成支援活動	0	10	10(17)
その他	0	2	2(4)
合 計	8	24	32(31)

[SNSフォロワー数]

SNS	2021年3月末	2020年4月
フェイスブック (2016.8～)	1,193	1,144
インスタグラム (2017.11～)	2,885	1,931

- ・ 当財団の活動時の写真等で構成した「九電みらい財団カレンダー2021」を製作し、各種イベントで配布
- ・ 大分県で開催される第5回「山の日」記念全国大会関連イベントとしてInstagram フォトコンテストを開催し、登山者が多く立ち寄る長者原ビジターセンターに入賞作品パネルを展示

V その他

1 賛助会

- 財団事業を支援する賛助会は、九州電力のグループ会社 30 社が入会（賛助会費計 680 万円）
- 財団事業の趣旨に賛同いただいた個人 22 名から寄附を受領（寄附額計 13 万 6 千円）

2 積立資産の運用

九州電力から拋出された積立資産（5,000 万円）について、積立資産運用規程に則り運用（2020 年度末時点で 4 社、5,000 万円の社債を保有）

	銘柄	格付	購入額	利率	期間 (満期)
1	ユナイテッド・アーバン投資法人 第 17 回無担保投資法人債	AA	1,000 万円	0.240%	5 年 6 ヶ月 (2023 年 11 月)
2	ソフトバンクグループ(株) 第 53 回無担保投資社債	A-	1,000 万円	1.570%	約 6 年 (2024 年 6 月)
3	商船三井ブルーオーシャン環境債 (株)商船三井第 21 回無担保社債	A-	2,000 万円	0.420%	約 5 年 (2023 年 9 月)
4	ハピネスモール債 イオンモール(株)第 19 回無担保社債	A-	1,000 万円	0.3%	5 年 (2024 年 3 月)

3 事業報告の附属明細書

- 2020 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 64 条において準用する第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以 上